

## 歴史・文化探訪の会 第39回 豊川探訪会報告

師走の候、皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

第39回探訪会（豊川稻荷と豊川海軍工廠・桜ヶ丘ミュージアム見学）について、ご報告します。

天候に恵まれ、絶好の探訪会日和となった午前11時20分、名鉄豊川稻荷駅に15人の会員が集まり、初参加の方の紹介と挨拶を頂き、会を開始した。

徒歩で豊川稻荷へ向かい、「総門」でガイドと合流、挨拶の後、2グループに分かれ、ガイドの案内で、例大祭で賑わう中、総門、本殿、法堂、靈狐塚、奥の院等を約1時間見学した。見学を終わり、すぐ近くの昼食会場の「和食処松屋」に向かい、いなり寿司を含む「姫ランチ」を味わいながら、暫く歓談と休憩の時間をとった。

昼食休憩を終わり、徒歩にて桜ヶ丘ミュージアムに向かう。15分ほどで到着し、学芸員の案内で、1階の豊川海軍工廠についての展示を20分ほど見学した。見学を終わり、タクシーに分乗し、豊川海軍工廠に向かった。

10分ほどで到着、まず今は公園となっている広い敷地の一角にある豊川市平和交流館に入る。学芸員の挨拶の後、ビデオ映像を視聴し、豊川海軍工廠と戦災についての理解を深めた。その後交流館を出て、学芸員の案内のもと、まず500ポンド爆弾の着弾跡を見学した。その後すぐ隣の土壘に囲まれた旧第一火薬庫に入り内部（今は何も無い）を見学した。

火薬庫を出て、公園内を東に向かい、同じく土壘に囲まれた旧第三信管置場に到着、建物内部（当時の古い工作機械などがあった）を見学した。信管置場の見学を終わり、土壘を越える階段を上り公園内を一望し、反対側へ階段を降り土壘の外に出た。

そこから暫く歩き、防空壕の跡（堅穴を掘っただけのもので、直撃を受ければひとたまりも無い）を見学し、再び平和交流館に戻り内部の展示を見学した。

昭和20年8月7日、午前10時過ぎ、3000発以上の500ポンド爆弾が投下され工廠は壊滅的な被害を受け、2500人以上の犠牲者が出了。その中には児童生徒や女子挺身隊も含まれていたと言う。一隅に「平和の像」と犠牲者名簿が安置されていて、思わず合掌して平和を祈念した。

交流館入口で挨拶、タクシーに分乗し国府駅へ向かい、探訪会を終了した。

以上、ご報告申し上げます。

